

65歳以上の年齢別・男女別人口表 平成26年10月1日現在

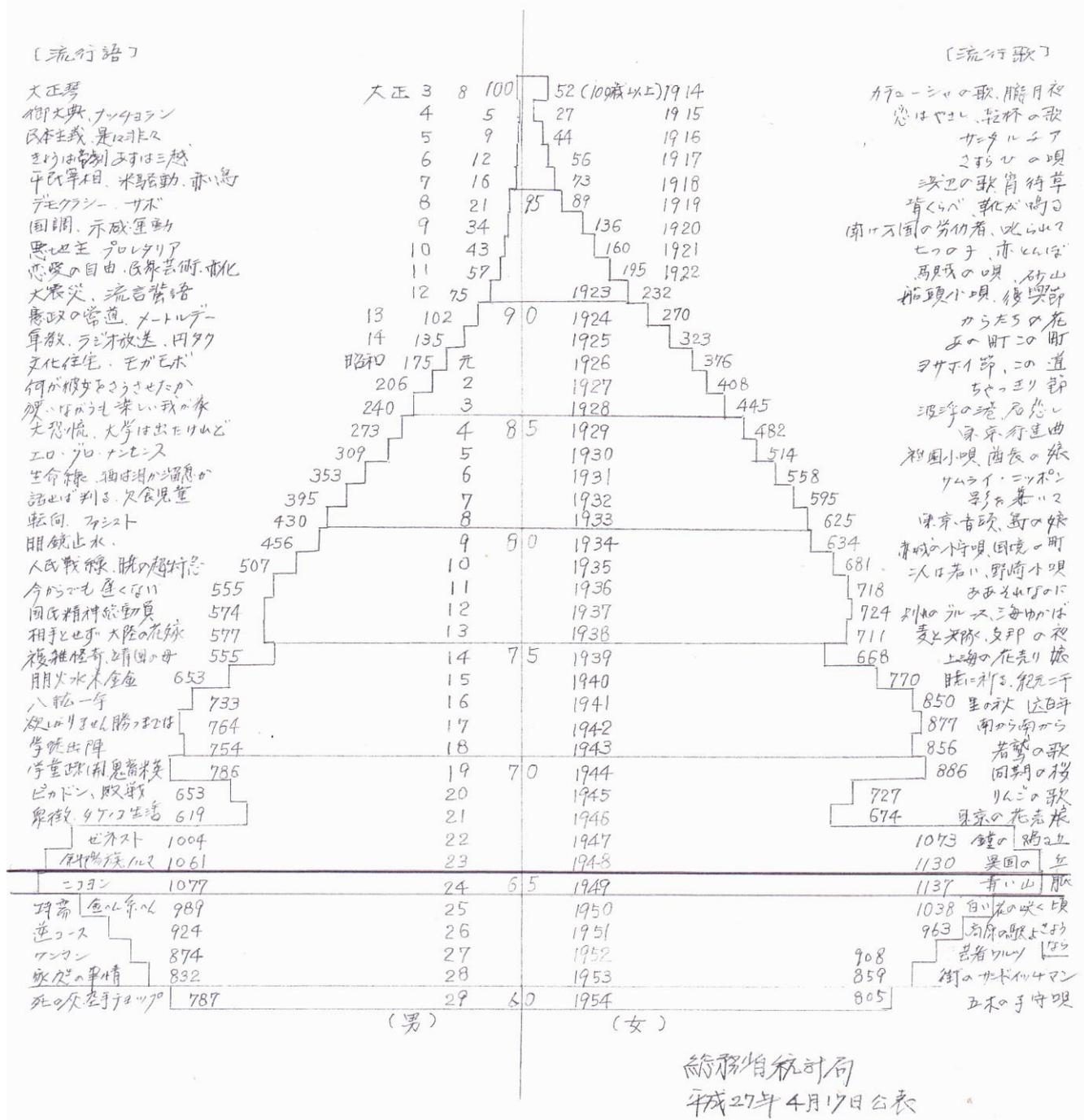
総務省統計局 2015年4月17日公表

付・流行語・流行歌 制作「月刊丈風」2015・4

65歳以上3300万人の年齢別・男女別人口の姿です。ご自分の生年に印をつけてみてください。思いのほか仲間が多く“若い”ことに気づかれると思います。60歳～75歳は成熟期で、史上に新たな「日本高齢社会」を模索し創出する現役です。75歳～85歳（女性はすでに90歳）は円熟した「高齢社会」を形成する主役です。90歳からの達成期がいわゆる優游自寧の余生。90歳台の男性は少ないですが、戦中・戦後を生き抜いた頑強で“不死身”の大正人です。「日本高齢社会」の達成はこれからです。（堀内 記）

2015.4.24 H

年齢別：男女別人口 平成26年10月1日現在 (単位 1000人)

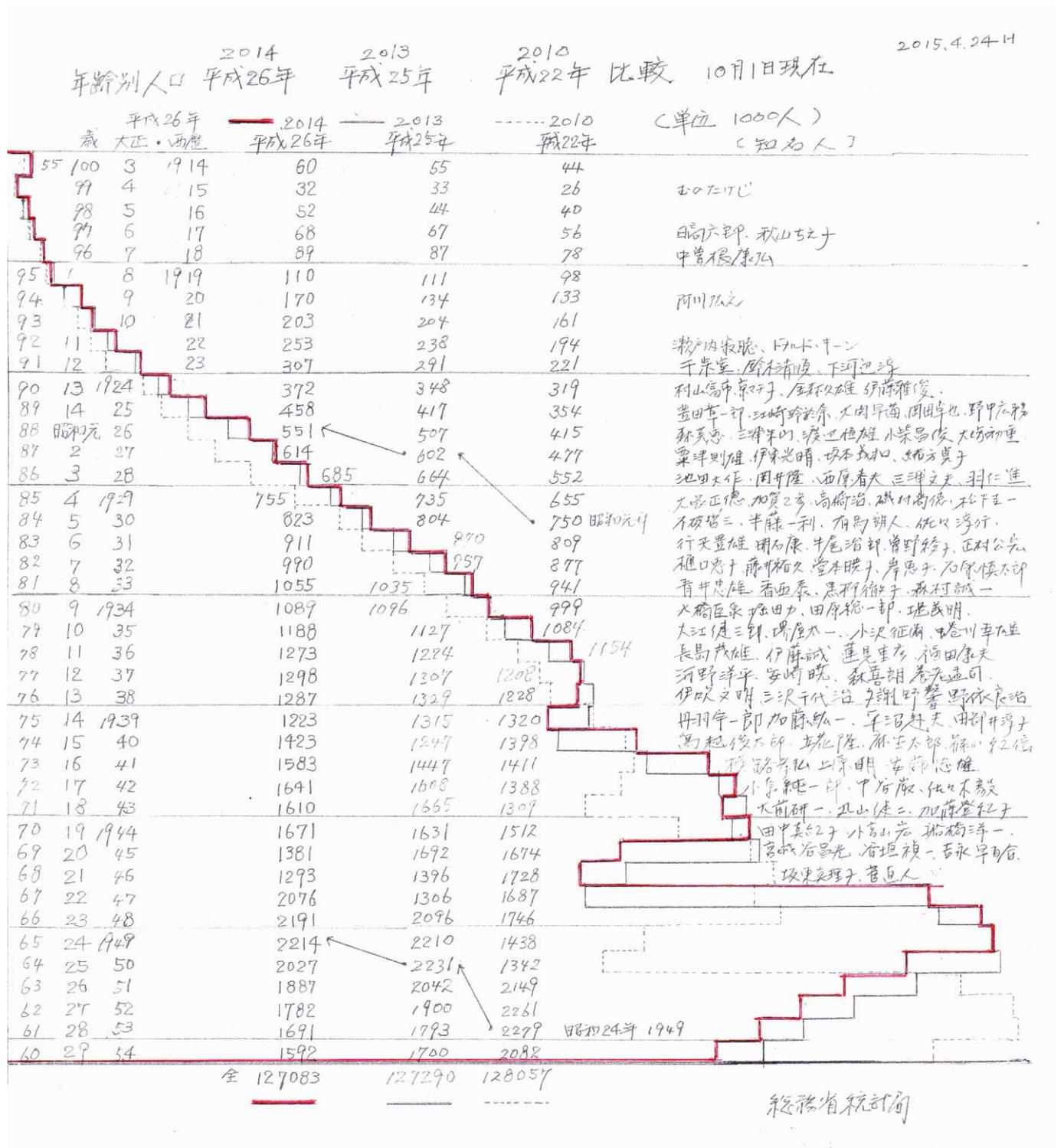


総務省統計局
平成27年4月17日公表

60歳以上の年齢別人口表 平成22・25・26年比較 10月1日現在

付・知名人 制作「月刊丈風」2015・4

昨年、平成26年に77歳の「喜寿」を迎えたのが昭和12年（1937年生まれ）の方々。そこまでは平穏な時代推移を示す階段状になっています。昭和14年は日中戦争で、昭和20年・21年は太平洋戦争の影響で出生数が減りました。戦後の昭和22・23・24年がいわゆる「団塊の世代」で、24年が最多です。3年間の650万人が高齢期（65歳以上）に達しました。右欄に当該年生まれの知名人を100人ほど記しましたが、この人たちとともにつくる「成熟+円熟」した新しい社会が「日本高齢社会」です。（堀内 記）



65歳以上人口が3300万人、割合は26.0%に

人口推計 平成26年10月1日現在

総務省統計局 平成27年4月17日公表

総人口は21万5千人の減少、日本人人口は減少幅が拡大

総人口は1億2708万3千人で、前年に比べ21万5千人(0.17%)の減少と減少幅は縮小したものの、4年連続で大きく減少しています。日本人人口は1億2543万1千人で、前年に比べ27万3千人(0.22%)の減少と減少幅は拡大しています。

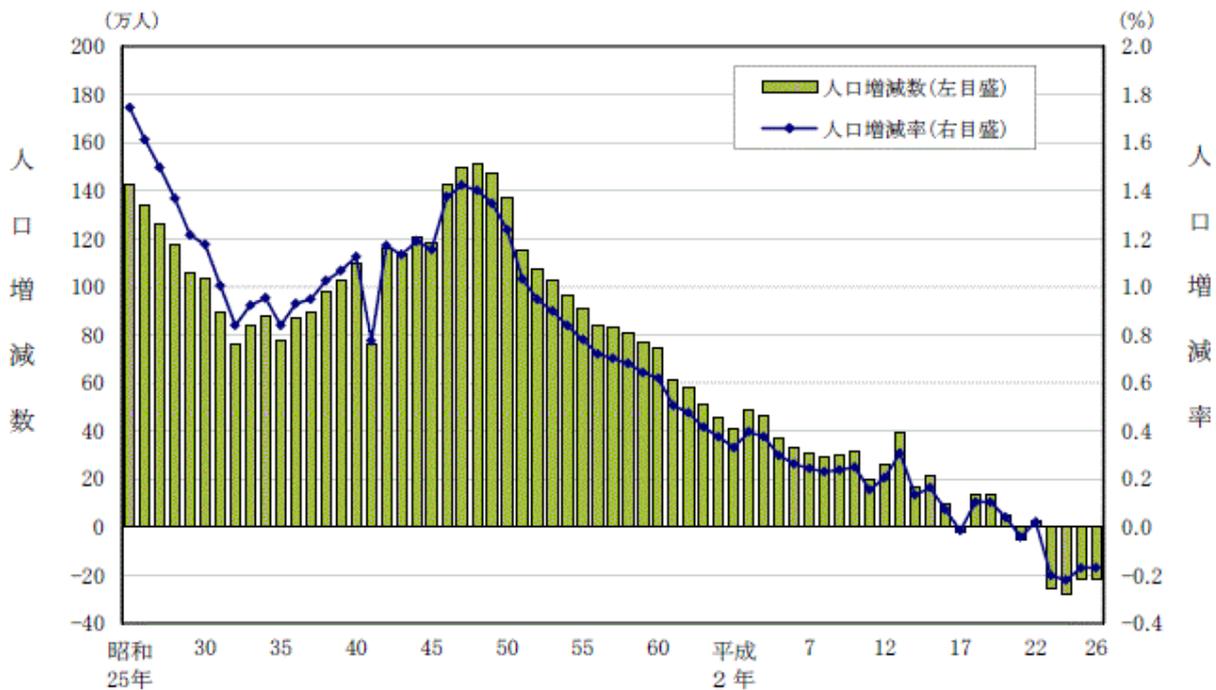
65歳以上人口が年少人口の2倍を超える

年少人口(0~14歳)は1623万3千人で、前年に比べ15万7千人の減少となっています。

生産年齢人口(15~64歳)は7785万人で、前年に比べ116万人の減少となっています。

65歳以上人口は3300万人で、前年に比べ110万2千人の増加となり、初めて年少人口の2倍を超えました。

図1 総人口の人口増減数及び人口増減率の推移(昭和25年~平成26年)



注) 人口増減率は、前年10月から当年9月までの人口増減数を前年人口(期首人口)で除したものの。

8人に1人が75歳以上人口となる

年少人口の割合は12.8%となり、過去最低となっています。

生産年齢人口の割合は61.3%となり、平成4年(69.8%)以降、低下を続けています。

65歳以上人口の割合は26.0%となり、過去最高となっています。

75歳以上人口の割合は12.5%となり、初めて8人に1人が75歳以上人口となっています。

図2 我が国の人口ピラミッド（平成26年10月1日現在）

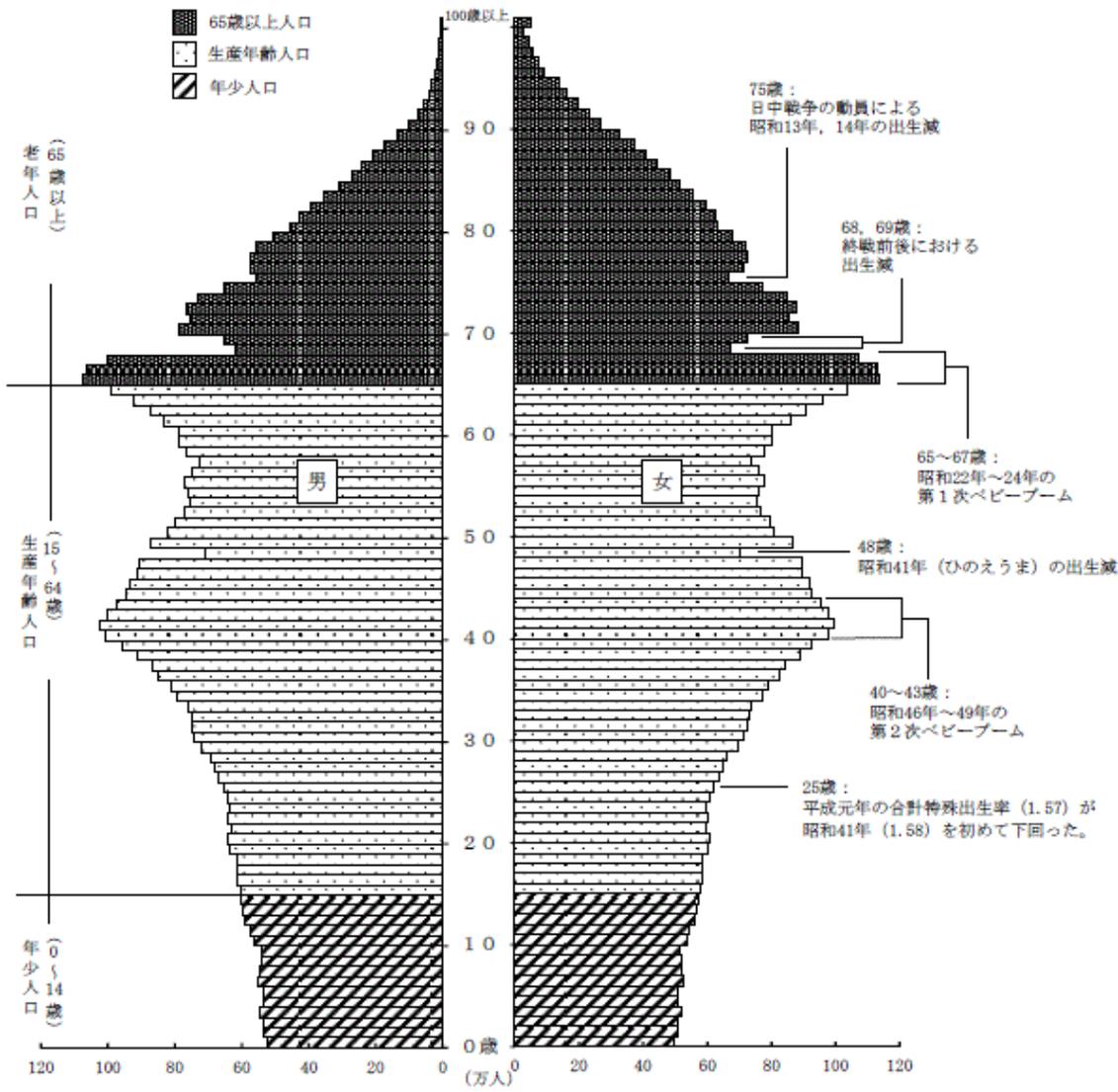
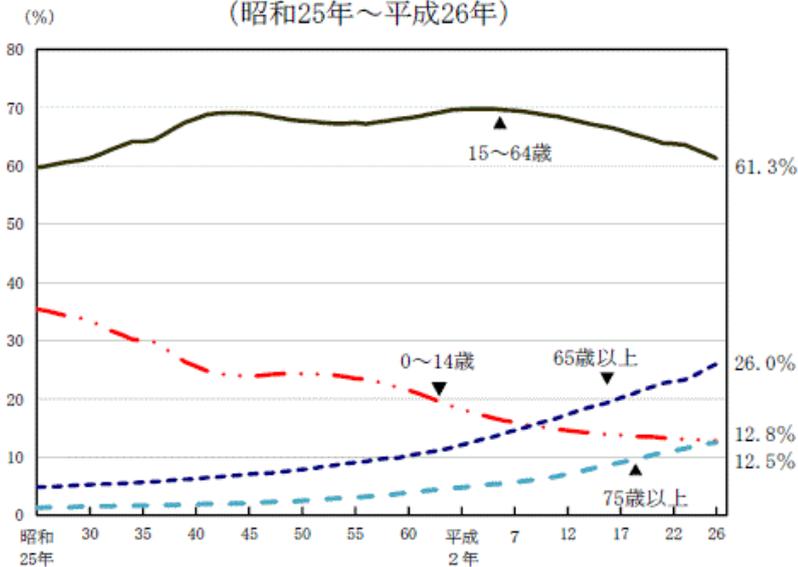


図3 年齢3区分別人口の割合の推移（昭和25年～平成26年）



・ **三世代年表** 生年別男女別の人口、流行語、流行歌 制作・堀内正範

◇ **これより「中年期」(三〇歳～五九歳)**

◇ **「而立期」(三〇～三九歳)** 人口は2014 平成26年10月1日現在。総務省統計局

生年	干支	年齢	人口(男・女)万人	流行語・流行歌
一九八五	昭和六〇	乙丑三〇	71・9 69・4	ダッチロール。新人類。「飾りじゃないのよ涙は」
一九八四	昭和五九	甲子三一	74・1 71・6	くれない族。イッキ飲み。「涙のリクエスト」
一九八三	昭和五八	癸亥三二	74・8 72・5	おしん。気くばり。フォーカス。「矢切の渡し」
一九八二	昭和五七	壬戌三三	74・8 73・0	逆噴射。ネクラ・ネアカ。「悲しい色やね」
一九八一	昭和五六	辛酉三四	75・9 73・8	フルムーン。熟年。ブリッ子。「ルビーの指輪」
一九八〇	昭和五五	庚申三五	79・2 77・1	クリスタル族。「奥飛騨慕情」「恋人よ」
一九七九	昭和五四	己未三六	81・3 79・0	インベーダー。ダサイ。「贈る言葉」「関白宣言」
一九七八	昭和五三	戊午三七	84・7 82・5	不確実性の時代。サラ金。竹の子族。「UFO」
一九七七	昭和五二	丁巳三八	86・8 84・6	ルーツ。カラオケ。「津軽海峡冬景色」
一九七六	昭和五一	丙辰三九	91・2 88・7	記憶にございません。灰色高官。「北の宿から」

◇ **「不惑期」(四〇～四九歳)** 人口は2014 平成26年10月1日現在。総務省統計局

生年	干支	年齢	人口(男・女)万人	流行語・流行歌
一九七五	昭和五〇	乙卯四〇	95・4 92・8	複合汚染。乱塾。「およげ!たいやきくん」
一九七四	昭和四九	甲寅四一	100・6 97・9	物価。超能力。ベルばら。「昭和枯れすすき」
一九七三	昭和四八	癸丑四二	102・2 99・8	省エネ。日本沈没。福祉元年。「神田川」
一九七二	昭和四七	壬子四三	100・4 97・7	列島改造論。未婚の母。恍惚の人。「瀬戸の花嫁」
一九七一	昭和四六	辛亥四四	97・6 95・5	脱サラ。ゴミ戦争。ピース。「また逢う日まで」
一九七〇	昭和四五	庚戌四五	94・8 92・8	大阪万博。ウーマンリブ。「知床旅情」
一九六九	昭和四四	己酉四六	93・1 91・7	エコノミック・アニマル。「黒ネコのタンゴ」
一九六八	昭和四三	戊申四七	91・0 89・8	昭和元禄。ゲバルト。「恋の季節」「星影のワルツ」
一九六七	昭和四二	丁未四八	90・7 89・4	中流。核家族。アングラ。「真赤な太陽」
一九六六	昭和四一	丙午四九	70・7 70・2	丙午。交通戦争。「君といつまでも」

◇ **「知命期」(五〇～五四歳)** 人口は2014 平成26年10月1日現在。総務省統計局

生年	干支	年齢	人口(男・女)万人	流行語・流行歌
一九六五	昭和四〇	乙巳五〇	87・4 86・7	期待される人間像。しごき。「女心の唄」
一九六四	昭和三九	甲辰五一	81・9 81・0	俺についてこい。ウルトラC。「お座敷小唄」
一九六三	昭和三八	癸卯五二	79・7 79・3	三ちゃん農業。「高校三年生」
一九六二	昭和三七	壬寅五三	76・9 76・7	人づくり。スモッグ。「いつでも夢を」「王将」
一九六一	昭和三六	辛丑五四	75・7 75・5	プライベート。不快指数。「上を向いて歩こう」

◇ **「パラレルゾーン期」(五五～五九歳)** 人口は2014 平成26年10月1日現在。総務省統計局

生年	干支	年齢	人口(男・女)万人	流行語・流行歌
一九六〇	昭和三五	庚子五五	76・1 76・2	安保闘争。声なき声。「誰よりも君を愛す」

一九五九 昭和三四 己亥五六 77・2 77・7 ご清潔でご誠実で。がめつい奴。「黒い花びら」
 一九五八 昭和三三 戊戌五七 74・9 75・9 団地族。ハイティーン。イカす。「港町十三番地」
 一九五七 昭和三二 丁酉五八 72・8 73・8 神武景气。よろめき。「有楽町で逢いましょう」
 一九五六 昭和三一 丙申五九 76・4 77・6 もはや戦後ではない。太陽族。「ここに幸あり」

◇これより「高年期」(六〇歳～)

◇「高年期(還暦期)」(六〇～六九歳) 人口は2014 平成26年10月1日現在。総務省統計局

生年	干支	年齢	人口(男・女)万人	流行語・流行歌
一九五五	昭和三〇	乙未六〇還暦	78・9 80・3	ノイローゼ。三種の神器。「南国土佐を後にして」
一九五四	昭和二九	甲午六一	78・7 80・5	死の灰。空手チョップ。「五木の子守唄」
一九五三	昭和二八	癸巳六二	83・2 85・9	家庭の事情。八頭身。「街のサンドイッチマン」
一九五二	昭和二七	壬辰六三	87・4 90・8	黄変米。ワンマン。「芸者ワルツ」
一九五一	昭和二六	辛卯六四	92・4 96・3	逆コース。「高原の駅よさようなら」
一九五〇	昭和二五	庚寅六五	98・9 103・8	特需。金へん糸へん。「白い花の咲く頃」
一九四九	昭和二四	己丑六六	107・7 113・7	ニコヨン。「青い山脈」「長崎の鐘」
一九四八	昭和二三	戊子六七	106・1 113・0	斜陽族。ノルマ。「湯の町エレジー」「異国の丘」
一九四七	昭和二二	丁亥六八	100・4 107・3	不逞の輩。ゼネスト。「鐘の鳴る丘」
一九四六	昭和二一	丙戌六九	61・9 67・4	象徴。タケノコ生活。「東京の花売娘」

◇「高年期(古希期)」(七〇～七四歳) 人口は2014 平成26年10月1日現在。総務省統計局

生年	干支	年齢	人口(男・女)万人	流行語・流行歌
一九四五	昭和二〇	乙酉七〇古希	65・3 72・7	敗戦。ピカドン。一億総ざんげ。「リンゴの唄」
一九四四	昭和一九	甲申七一	78・6 88・6	鬼畜米英。学童疎開。「同期の桜」「お山の杉の子」
一九四三	昭和一八	癸未七二	75・4 85・6	撃ちてしまん。学徒出陣。「若鷲のうた」
一九四二	昭和一七	壬午七三	76・4 87・7	欲しがりません勝つまでは。「南から南から」
一九四一	昭和一六	辛巳七四	73・3 85・0	八紘一字。国民学校。「めんこい仔馬」「里の秋」

◇「高年期(喜寿期)」(七五～七九歳) 人口は2014 平成26年10月1日現在。総務省統計局

生年	干支	年齢	人口(男・女)万人	流行語・流行歌
一九四〇	昭和一五	庚辰七五	65・3 77・0	月月火水木金金。「暁に祈る」「紀元二千六百年」
一九三九	昭和一四	己卯七六	55・5 66・8	複雑怪奇。靖国の母。「上海の花売り娘」
一九三八	昭和一三	戊寅七七喜寿	57・7 71・1	相手とせず。大陸の花嫁。「麦と兵隊」「支那の夜」
一九三七	昭和一二	丁丑七八	57・4 72・4	国民精神総動員。「別れのブルース」「海ゆかば」
一九三六	昭和一	丙子七九	55・5 71・8	今からでも遅くない。「ああそれなのに」

◇「高年期(傘寿期)」(八〇～八四歳) 人口は2014 平成26年10月1日現在。総務省統計局

生年	干支	年齢	人口(男・女)万人	流行語・流行歌
一九三五	昭和一〇	乙亥八〇傘寿	50・7 68・1	人民戦線。暁の超特急。「二人は若い」「野崎小唄」
一九三四	昭和	九 甲戌八一	45・6 63・4	明鏡止水。「赤城の子守唄」「国境の町」
一九三三	昭和	八 癸酉八二	43・0 62・5	転向。ファシスト。「東京音頭」「島の娘」

一九三二 昭和 七 壬申八三 39・5 59・5 話せば判る。欠食児童。「影を慕いて」
 一九三一 昭和 六 辛未八四 35・3 55・8 生命線。酒は泪か溜息か。「サムライニッポン」

◇これより「長命期」(八五歳～)

◇「長命期(米寿期)」(八五～八九歳) 人口は2014 平成26年10月1日現在。総務省統計局

生年	干支	年齢	人口(男・女)万人	流行語・流行歌	
一九三〇	昭和 五	庚午八五	30・9	51・4	エロ・グロ・ナンセンス。「祇園小唄」「曾長の娘」
一九二九	昭和 四	己巳八六	27・3	48・2	大恐慌。大学は出たけれど。「東京行進曲」
一九二八	昭和 三	戊辰八七	24・0	44・5	狭いながらも楽しい我が家。「波浮の港」「君恋し」
一九二七	昭和 二	丁卯八八	20・6	40・8	何が彼女をさうさせたか。「ちゃつきり節」
一九二六	昭和 一	丙寅八九	17・5	37・6	文化住宅。モガ・モボ。「ヨサホイ節」「この道」

◇「長命期(卒寿期)」(九〇～九四歳) 人口は2014 平成26年10月1日現在。総務省統計局

生年	干支	年齢	人口(男・女)万人	流行語・流行歌	
一九二五	大正一四	乙丑九〇	13・5	32・3	軍教。ラジオ放送。円タク。「あの町この町」
一九二四	大正一三	甲子九一	10・2	27・0	憲政の常道。メートルデー。「からたちの花」
一九二三	大正一二	癸亥九二	7・5	23・2	大震災。流言蜚語。「船頭小唄」「復興節」
一九二二	大正一一	壬戌九三	5・7	19・5	恋愛の自由。民衆芸術。赤化。「馬賊の唄」「砂山」
一九二一	大正一〇	辛酉九四	4・3	16・0	悪家主。プロレタリア。「七つの子」「赤とんぼ」

◇「長命期(白寿期)」(九五～九九歳) 人口は2014 平成26年10月1日現在。総務省統計局

生年	干支	年齢	人口(男・女)万人	流行語・流行歌	
一九二〇	大正 九	庚申九五	3・4	13・6	国調。示威運動。「聞け万国の労働者」「叱られて」
一九一九	大正 八	己未九六	2・1	8・9	デモクラシー。サボ。「背くらべ」「靴が鳴る」
一九一八	大正 七	戊午九七	1・6	7・3	平民宰相。米騒動。赤い鳥。「浜辺の歌」「宵待草」
一九一七	大正 六	丁巳九八	1・2	5・6	きょうは帝劇、あすは三越。「さすらひの唄」
一九一六	大正 五	丙辰九九	0・9	4・4	民本主義。是々非々。「サンタルチア」「電車」

◇これより「百寿期」(100歳～) 人口は2014 平成26年10月1日現在。総務省統計局

生年	干支	年齢	人口(男・女)万人	流行語・流行歌	
一九一五	大正 四	乙卯一〇〇	0・5	2・7	御大典。ナッチョラン。「恋はやさし」「乾杯の唄」
一〇〇歳以上 男 0・8 女 5・2 計 6・0万人 (2014年10月1日。総務省統計局)					

一〇〇歳以上 男 0・6 女 3・8 計 4・4万人 (2010年10月1日「国勢調査」)

一〇〇歳以上 男 7586 女 5万1234 計 5万8820人 (2014年9月12日 厚労省調査)

一九一四	大正 三	甲寅一〇一	—	—	大正琴。「カチューシャの歌」「朧月夜」「故郷」
一九一三	大正 二	癸丑一〇二	—	—	薩関。新しい女。「鯉のぼり」「海」「早春譜」
一九一二	大正 一	壬子一〇三	—	—	大正維新。閥族打倒。「都ぞ弥生」「春の小川」
一九一一	明治四四	辛亥一〇四	—	—	元始、女性は実に太陽であった。「二宮金次郎」

一九一〇	明治四三	庚戌一〇五	—	—	主義者。小学唱歌。「春が来た」「われは海の子」
一九〇九	明治四二	己酉一〇六	—	—	馬鹿な奴じゃ。マラソン。「ローレライ」「菩提樹」
一九〇八	明治四一	戊申一〇七	—	—	浮華軽佻。耽美派。「人を恋うる歌」「ハイカラ節」
一九〇七	明治四〇	丁未一〇八	—	—	自然主義。美顔術。キリン。「旅愁」「故郷の廃家」
一九〇六	明治三九	丙午一〇九	—	—	黄禍論。成り金。無政府主義。「青葉の笛」
一九〇五	明治三八	乙巳一一〇	—	—	天気晴朗なれど波高し。二〇三高地。「戦友」
一九〇四	明治三七	甲辰一一一	—	—	軍神。君死にたまふことなかれ。「日本陸軍」
一九〇三	明治三六	癸卯一一二	—	—	アジアは一つなり。人生不可解。魔風恋風。

改元

明治 45 = 大正元 1912. 7. 30

大正 15 = 昭和元 1926. 12. 25

昭和 64 = 平成元 1989. 1. 8

(2015・6・25 修正 堀内正範)

↓

高齢期を「賀寿期5歳層8ステージ」として生きる

＊同年配の仲間とともに「百寿期」をめざす

「賀寿」は、いまも「何何先生の喜寿の会」「おばあちゃまの米寿の会」などとして祝われているが、先人は見定めえない人生の前方に次々に賀寿を設けて、個人的長寿のプロセスを祝福してきた。いまや長寿時代になったのだから、多くの同年配の仲間とともにお互いを励まし合いながら「百寿期」をめざすのもいいのではないか。

ここでの提案は「賀寿期5歳層8ステージ」による高齢期の生き方である。

還暦期（六〇歳～六九歳）	昭和三〇年～昭和二一年
古希期（七〇歳～七四歳）	昭和二〇年～昭和一六年
喜寿期（七五歳～七九歳）	昭和一五年～昭和一一年
傘寿期（八〇歳～八四歳）	昭和一〇年～昭和六年
米寿期（八五歳～八九歳）	昭和五年～昭和元年
卒寿期（九〇歳～九四歳）	大正一四年～大正一〇年
白寿期（九五歳～九九歳）	大正九年～大正五年
百寿期（一〇〇歳以上）	大正四年以前

ただ漠然として「引退余生」をすごすのと、この「賀寿期5歳層」の8ステージを基準にして「現役長生」の長寿時代をすごすのでは、人生に雲泥の差が生じるだろう。

聖路加病院名誉院長の日野原重明博士が2011年10月4日に百寿に達して話題になった。その翌年に現役映画監督の新藤兼人さんが到達した。新藤さんは到達してすぐ亡くなったが、百寿到達は前向きな人生の目標として実感をもたれるところまできている。

還暦の60（高齢者65）歳から100歳までの間を「5歳層8ステージ」に分けて、その一つひとつを仲間とともに迎えて過ごす。

「還暦期」から「百寿期」まで8層の一つひとつを迎えてすごしてゆくことになる。残念ながらそのプロセスの途中で、「ちょっと、お先に」といって途中下車をする仲間を見送らねばならないこともあるが。そんな友人の願いを引き連れて、どこまでも長寿を全うすること。それがこの国の新たな歴史を刻むことになる。

2015年には昭和20年生まれの次のみなさんが「古希」に到達する。何人かにすぎないが、お仲間の代表としてここに「古希期」の知名人としてご紹介できるのは楽しい。

松原智恵子、佐良直美、東郷和彦、落合恵子、佐高信、川端達夫、宮城谷昌光、谷垣禎一、吉永小百合、栗原小巻、宮本信子、小此木政夫、増田実、鹿内春雄、茂山千五郎、池澤夏樹、タモリ、田中直毅、永井豪、福岡政行、水前寺清子、樋口久子、直嶋正行、櫻井よし子、岡本行夫、中曾根弘文、富司純子さんら。

七〇歳の「古希」になったからといって老成することはない。やっと「第二賀寿期」に達したところ。まだまだ未踏の沃野がある。

（『丈人力のススメ 未踏の「人生90年」を踏破する』より 堀内正範 記）